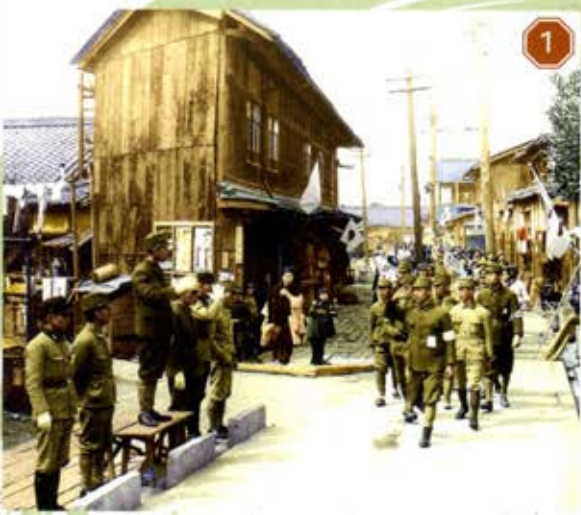




④大阪市では1944年8月から9月にかけて集団学童疎開が始まりました。西成区は大部分、近隣の大阪府南部と隣接の和歌山県の北部が割り当てられた。



①戦時中の千本の新開通(岸里小学校北門前)にての出征兵の見送りの様子。道沿いの川に板敷で覆っている様子も見える。



③木津川筋の造船業は、戦時中は軍需に配慮する操業にフル回転となっていた。写真は1944年撮影の進水式であり、木津川の対岸の大正区の工場街も見とれる。



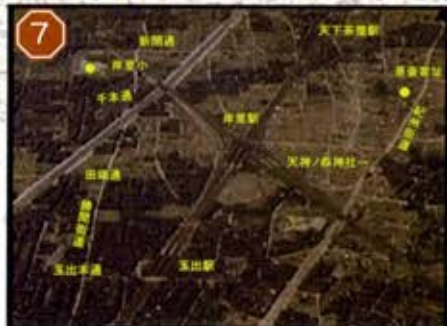
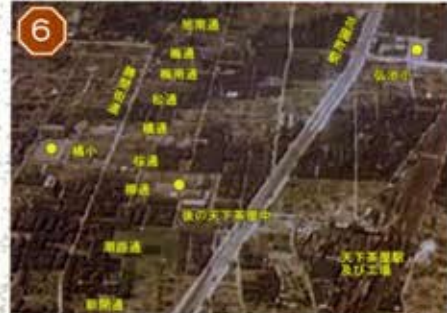
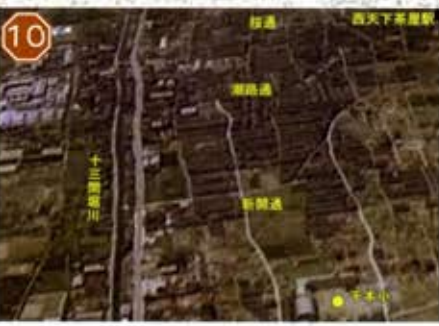
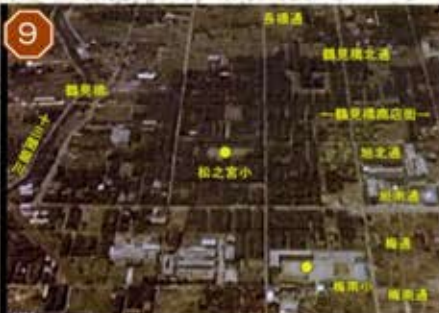
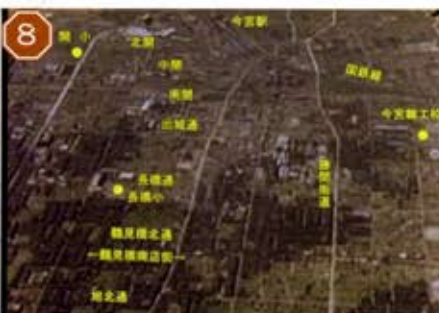
②潮路(当時の柳通)での早朝ラジオ体操。戦時中の撮影で、健康増進という本来の目的に加え、国民精神発揚の効果も期待されたであろうが、多くの子どもに溢れている。



⑤1945年3月13日の深夜から14日未明の大坂大空襲は、大阪市内南部では浪速区を標的に焼夷弾が投下された。その手前に多く着弾したエリアが西成区となった。浪速区に隣接する西成区北部は一部を除き全焼となった(⑧の北部)。開小は全焼(その後廃校)、長橋小、北津守小は半焼の被害を受けた。それより南部の⑥⑨では、直接の標的ではなかったが多くの着弾があり、その中でも、⑥の天下茶屋や岸里、玉出(左頁⑧参照)は全焼に近くなり、その他の地区も部分的に焼失した。岸里小が半焼(⑦参照)となった。

⑥6月1日の昼間大空襲では、港湾部や大阪市北部が新たに全焼したが、西成区では⑤の津守駅前の大日本紡績工場が全焼する。6月7日の昼間大空襲では被害を受けなかったが、6月15日の昼間大空襲では⑥、⑨の中部が焼失し、橋、梅南小が半焼となった。北部は再度空襲を受け、徳風小が全焼(その後廃校)、萩之茶屋小も半焼となった。⑩のように、千本小も3月と6月の空襲で校舎を焼失している。

⑤1945年3月13日の深夜から14日未明の大坂大空襲は、大阪市内南部では浪速区を標的に焼夷弾が投下された。その手前に多く着弾したエリアが西成区となった。浪速区に隣接する西成区北部は一部を除き全焼となった(⑧の北部)。開小は全焼(その後廃校)、長橋小、北津守小は半焼の被害を受けた。それより南部の⑥⑨では、直接の標的ではなかったが多くの着弾があり、その中でも、⑥の天下茶屋や岸里、玉出(左頁⑧参照)は全焼に近くなり、その他の地区も部分的に焼失した。岸里小が半焼(⑦参照)となった。



戦時中から
戦災復興期
戦災復興事業による
西成区の改変と戦後の諸相
1941年～1955年
(昭和16年～昭和30年)



① 萩之茶屋南公園(通称三角公園)の1954年の写真。都市計画公園として敷地は確保され、高整備が始まっている。南海天王寺支線の電車と海道消防署の火の見やぐらが確認できる。

② 一方、当時の国鉄は長らく西成区内に鉄道駅を設けておらず、写真は1952年撮影のものであるが、現新今宮駅の南海との交差付近から、天王寺方面を望んだのどかな風景が見てとれる。複線であるが、駅が新設されるのは環状線が開通する1964年、南海の駅は1966年になった。



③ 戦時中に工事がストップしていた国道26号線下の地下鉄建設が再開され、花園町より以南岸里、玉出と延伸された。1956年の岸里駅の写真である。



④ 1954年撮影の花園町に登場していたスーパーマーケット。



1942年



1953年

⑦ ⑧ 中世以来の歴史ある勝間村の系譜を有する玉出地区の空襲で焼失する前の1942年の状況(⑦)と、戦災復興事業の施行中の1953年の状況(⑧)を比較したものである。水色線で描き込んだ環濠の中に生根神社と四ヶ寺(図中赤字)の存在、東西を貫く本通りや、十三間堀川を西にした旧集落と、その周りにほとんど区別つかずに市街地化が進行していた。歴史的集落はほぼ消失してしまったが、元の場所かその近隣で寺社は復興した。しかし当時の面影はない。また下図では新設の玉出中の敷地や、玉出西公園の敷地が目立つ。玉出小は講堂以外焼失を免れ、玉出市民館は公園になった。



⑤ 1956年撮影のアーケードが未設置の鶴見橋商店街。靴関係の商店でにぎわっている状況が見てとれる。



⑥ 1950年9月のジェーン台風は、高潮被害が激しく、西成区では十三間堀側以西の津守地区が冠水してしまう。その時の津守小学校の災禍の写真である。